

酒田駅周辺整備事業における整備計画方針（案）について

酒田駅周辺地区グランドデザイン

（１）酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念

「観光起点」+「市民の憩いの場」

酒田駅周辺地区を起点にまち全体が有機的につながり、来街者、市民がともに回遊を生み出すようなまちづくり

まちの魅力と利便性を向上させ、「ひと」で賑わう空間

（２）酒田駅周辺地区に求められる機能（４つの機能）

- 1 玄関口機能
- 2 交通結節機能
- 3 市民にぎわい交流機能
- 4 まちなか居住機能

（３）短期整備事業区域（平成 32 年度までの完成）



酒田駅前整備計画方針（案）【整備区域・公共施設・事業手法・市負担基準額】

（１）整備区域

方針：旧ジャスコ跡地と隣接街区全域を基本とする。

- グランドデザインで策定した隣接街区全域の整備が、まちづくりの観点から理想。
- 玄関口に相応しい景観形成、老朽化した都市機能の更新、まちの防災機能の向上、未整備な都市計画道路の用地確保等の観点から整備区域を決定。

※隣接街区全域を整備区域の基本とするが、地権者の意向により変わることがある。



（２）公共施設

方針：酒田コミュニケーションポート（仮称）を公共施設として整備する。

酒田コミュニケーションポート（仮称）

- 人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点を整備
- 期待される効果
 - ・多様な人財による多様な交流によるにぎわい創出
 - ・広域観光拠点、定住自立圏中心市としての求心力の向上
 - ・様々な“場”としての提供による新しい産業の芽の創出

② 観光情報センター

- 【整備目的】
- ・駅前の観光案内、情報発信機能の向上
- 【整備内容】
- ・100 ㎡を基本として整備

③ 広場

- 【整備目的】
- ・駅前にはイベント等に活用できる空間がない。
 - ・景観形成や憩いの場として整備
- 【整備内容】
- ・1,000 ㎡を基本として整備

① ライブラリーセンター

- 【整備目的】
- ・未来を築く人材育成、交流支援機能の充実
 - ・多様な読書スタイルを提供し、多様なニーズへの対応（蔵書数、企画展示、学習室、レファレンス、ビジネス支援等）
- 【整備内容】
- ・床面積 3,000 ㎡を基本として整備
 - ・カフェや憩い場等として、別途 200 ㎡を基本として整備

④ 駐車場

- 【整備目的】
- ・公共施設利用者及び駅周辺への不特定多数利用者用として整備
- 【整備内容】
- ・整備駐車台数のうち 200 台
 - ※公共施設利用者 70 台、不特定多数 130 台

⑤ バスベイ

- 【整備目的】
- ・交通結節機能強化のため、駅前のバス停を集約
- 【整備内容】
- ・旧ジャスコ跡地の北側（県道沿い）にバスベイを整備

（３）事業手法

方針：市街地再開発事業（個人施行）を基本とする。

- 特に既存建築物の解体・補償費等に、国・県・市から手厚い補助が受けられることで、事業者負担が軽減し、事業成立性が高まる。
- 民間による投資など、市街地再開発事業よりも市負担の軽減が図られる手法の提案を残すため「基本」としている。

（４）公共施設購入基準額

方針：市が取得する公共施設の購入基準額は 27 億円とする。

- 公共施設購入基準額は、共有持ち分を含めた額である。
- 公共施設購入基準額は、市有地の土地代分を権利変換により反映させた額である。
- 市街地再開発事業による市補助金は含んでいない。

酒田コミュニケーションポート（仮称）

※コミュニケーション
社会生活を営む人間の間に行われる知覚、感情、思考の伝達

人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点



●期待される効果

多様な人財による多様な交流によるにぎわいの創出

広域観光拠点、定住自立圏中心市としての求心力の向上

様々な“場”としての提供による新しい産業の芽の創出